

新聞に親しみ、世の中を知ろうとする生徒を 育てるための実践

延岡市立東海中学校
教諭 矢野 真生

1 はじめに

延岡市街地の北東部に位置する本校は、東海小、東海東小、川島小、港小の4校より進学してくる生徒数457人の学校で現在は延岡市最大の規模である。また部活動の関係で校区外から通学する生徒もいる。現在16学級あり（特別支援学級2クラス含む）、活気あふれる部活動も盛んな学校である。校区は鉄鋼業や製造業も盛んな地区であり、延岡市街の北の玄関口である。西南戦争の激戦地「和田越」や官軍の本陣となった檜山も校区内にある。



【東海中Ⅱ・Ⅲ棟校舎】



【校訓の石碑】



【職員室前学級用棚】

2 N I E 実践内容

(1) 学校としての取組

- ・新聞についてはN I Eの実践校として配付される新聞2部を 今年度は3学年に配付することにした。5学級あるので、2学級ずつ順番に配付する形式をとった。
- ・毎朝、職員室前の学級用の棚に新聞を入れて、各学級の担当が朝の会後に取りに来ることとした。
- ・延岡市では全小中学校において「全ての教室に新聞を」活動が行われている。つまり全小中学校の全学級に学期ごとで同じ全国紙及び宮崎日日新聞が無償で配付されている。

(2) 実践事例

① 日常的な新聞記事の掲示

本校では特に気になるニュースや、地域が取り上げられたニュースについては切り取って、N I Eコーナーに各学年で同じものを掲示することとしている。また、それに関連した補助資料を作成して掲示したりした。生徒はまだ新聞を読むための基本的な知識が不足しているので、教科の内容とも関連付けながら、補助資料を作成し、生徒の興味や関心を高められる一助としている。以下は今年、掲示した新聞記事の全てである（1月末現在）。



【Ⅲ棟2階・1年】



【Ⅲ棟中央階段・2年】



【Ⅰ棟階段・3年】

N I E 掲示コーナーの記事一覧

| 日付 | 新聞社 | 内 容 |
|-----------|--------|----------------------------|
| 2月22日(金) | 毎日新聞 | 24時間コンビニ転機 短縮営業で対立 |
| 4月23日(火) | 宮崎日日新聞 | 論調低調、無投票も続出 統一地方選終了 |
| 4月30日(火) | 宮崎日日新聞 | 激動「平成」に幕 |
| 5月 1日(水) | 宮崎日日新聞 | 新天皇即位「令和」へ |
| 5月 9日(木) | 夕刊デイリー | 新平底トンネルが貫通 |
| 5月14日(火) | 宮崎日日新聞 | 景気判断「悪化」6年ぶり |
| 5月17日(金) | 夕刊デイリー | 延岡高校120周年 伝統のちょうちん行列 |
| 5月27日(月) | 宮崎日日新聞 | 「勝ち越しうれしい」琴恵光夏場所8勝 |
| 5月28日(火) | 夕刊デイリー | 県人口26年度82万人 2045年県の推計 |
| 6月 1日(土) | 宮崎日日新聞 | 県予算14年ぶり6000億円台 |
| 6月 8日(土) | 読売新聞 | サニブラウン 9秒97 日本新 |
| 6月10日(月) | 読売新聞 | 一国二制度 崩壊を懸念 |
| 7月 1日(月) | 読売新聞 | 米朝首脳 板門店で会談 非核化協議へ交渉チーム |
| 7月 1日(月) | 夕刊デイリー | 生活習慣と学力を考える 中1対象に講演会 |
| 7月12日(金) | 読売新聞 | はやぶさ2 地下物質採取 りゅうぐう再着陸 |
| 9月 7日(土) | 朝日新聞 | 消費税還元 対象店の3割 |
| 9月19日(木) | 朝日新聞 | 韓国からの訪日客 半減 対韓輸出食品は4割減 |
| 9月24日(火) | 宮崎日日新聞 | 延岡突風は竜巻 気象庁風速50メートル 483棟被害 |
| 9月28日(月) | 夕刊デイリー | 戸郷プロ初勝利 聖心ウルスラ学園高出 |
| 9月30日(月) | 宮崎日日新聞 | 女子ゴルフ 柏原選手初V「長かった」母感無量 |
| 10月 8日(火) | 毎日新聞 | 源氏物語 最古の若紫「定家本」80年ぶり発見 |
| 10月 9日(水) | 毎日新聞 | 芝野 初の10代名人 囲碁最年少で七大タイトル |
| 10月10日(木) | 毎日新聞 | 吉野氏ノーベル賞 リチウムイオン電池開発 |
| 10月14日(月) | 毎日新聞 | 記録的豪雨 35人死亡 台風19号 21河川堤防決壊 |
| 10月21日(月) | 毎日新聞 | 壁 でもトライは遠かった(ラグビーW杯) |
| 10月28日(月) | 毎日新聞 | ゲーム依存 生活影響 初の全国調査 |
| 11月27日(水) | 宮崎日日新聞 | ヤクルト青木宣親コラム Wシリーズ最高の瞬間 |
| 12月14日(土) | 日本経済新聞 | 英1月EU離脱へ 総選挙、与党が過半数 |
| 1月 9日(木) | 宮崎日日新聞 | イラン報復 米軍攻撃 弾道ミサイル十数発 |
| 1月 9日(木) | 宮崎日日新聞 | ゴーン被告 潔白主張 日本の司法制度批判 |
| 1月13日(月) | 宮崎日日新聞 | 県内新成人 初の1万人割れ 9855人 人口減深刻 |
| 1月13日(月) | 宮崎日日新聞 | 本県21位 2区田崎14人抜き区間賞 |

また、3年生のフロアにはいつでも掲示した新聞記事と同じものが読めるようにファイルした冊子を常時置くこととした。常にA4サイズにコピーを作成する手間があったが、興味関心の高い生徒が手に取る姿が見られた。



② 学級で新聞を活用した取組

(1) 朝の会や帰りの会における「1分間スピーチ」の題材としての活用と教室掲示

次のような取組を行っているクラスもある。出席番号順に教室にある用紙をとって新聞から記事を選んで切り抜き、読んだ感想を200字程度で書いてくる。そして、それを主に帰りの会で

- ① どんな記事か
- ② 感想を発表する。それに対して他の生徒が知っていることや関連することを発表し合う取組を実施したり、「今日の気になるニュース」を帰りの会で紹介し、記事の内

容に関する感想を述べるという取組を行ったクラスもある。また、新聞記事を教室の後方に掲示したり、「1分間スピーチ」の内容を記述した用紙を掲示する取組もあった。

(2) 学級での委員会活動としての新聞作成

本校では文化委員会の取組として「学級新聞作り」をしてコンクールを行う活動をしている。大きな行事が終わった2学期後半に作成して、掲示している。



【教室の新聞掲示】

【学級新聞】

【新聞記事の切り取りと感想】

③ 授業における新聞の活用

社会科で新聞を活用した授業の取材

2019年度は1月10日（金）に1年生の社会の新聞を活用した授業の取材を宮崎日日新聞社よりしていただいた。担当している河野芽美先生は普段1年5クラスと3年1クラスを担当している。今回は以下のような題材で授業をしてもらうこととした。授業作りの中では、まず今話題性の高いものと授業の進度で「ヨーロッパのEU問題」がよいと考えた。そこで1年地理的分野の「世界の諸地域（ヨーロッパ州）」の単元の発展的学習として位置づけをし、基本的な学習過程を経た上での授業とすることとした。本時の目標は「1. 資料や新聞記事から必要な情報や意見を読み取ることができたか。（資料活用）」「2. EUと日本の課題の共通点を見つけ、身近な課題として考えを深めることができたか。（社会的事象に対する思考・判断）」とし、EU離脱に揺れたイギリスを取り上げ、新聞記事を用いて更に指導過程の中で「新聞」に目を通し、世の中の動きを知る上で来年度からの大学入学共通テストでの英語民間試験活用に高校生が反対意見を出したという記事を例に、若い世代でも世の中を変えることができることを生徒が認識できるように社会の授業を通して実感できる授業を目指して指導案を構成した。

1月10日（金）5校時 東海中学校1年5組 教室 指導者：河野芽美

学習指導過程

| 学習内容及び学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| 1. 本時の学習課題を知る | ○ 学習課題の確認後、自分達に置き替え、EUの課題を身近にとらえることが大切だと説明する。 |
| 2. 日本がEUに加盟できるとしたら、した方が良いかどうかを、資料を活用して考える ○ EU・アメリカ・日本の比較 ○ EU各国の1時間あたりの賃金 ○ 1人あたりのGDPと外国人労働者の移動 | ○ 自分の主観ではなく、資料に基づいて考えることを伝える。難しい場合は、前回の授業内容を思い出し、関連付けて考えることを促す。 |
| 3. 考えた意見を近くの席の人と共有し、全体に発表する | ○ 発表のときに自分がどの資料を参考にして意見を持ったのかわかるように発表させる。 |
| 4. 脱退をすることになったイギリスの | ○ 生徒に新聞記事を声に出して読ませることで内容を把 |

| | |
|--|--|
| <p>人々はどのような気持ちなのか 新聞記事で確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イギリス人の投票後の感想 ○何を後悔し不安に思っているか <p>5. イギリスの国民投票の結果が僅差であったことや、若者の投票率が低かったことで脱退と決まったことを理解する</p> | <p>握させる。また、記事の内容が難しいところはスライドや図を提示することで理解を助けるようにする。</p> <p>○ 国民投票の結果と若者の投票率の低さが原因であったことを理解させる。また、投票によって自国の将来が決まることの重要性や日本も投票や政治参加に関してイギリスと同様の課題があることに気づかせる。</p> |
| <p>6. 日本の高校生の政治への参加の仕方について書いた新聞記事を読み、感想を書く</p> | <p>○ 日本の高校生の記事を読んでから今日の授業の感想を書かせることで、EUの課題をより身近にとらえられるよう工夫をする。</p> |

評価1…資料や新聞記事などから必要な情報や意見を読み取ることができたか。(資料活用)

評価2…EUの課題と日本の課題を関連させて考えることができたか。(社会的事象に対する思考・判断)



【当日の授業の様子】

(3) 実践前後の変化・今後の課題

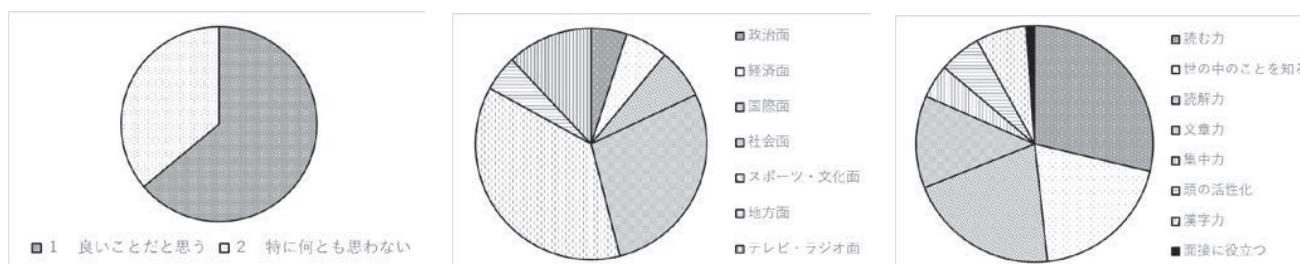
① アンケートによる生徒の意識の変化把握

1月中旬に全学年1クラスずつアンケートを実施した。昨年度と同じ質問内容で比較することとした。新聞が無料で配付されることについては肯定的な受け止めが昨年度と同様の結果であった。また32～36人の学級で半数の生徒が新聞に目を通すようになったことが分かった。また、「どの内容をよく読むか」の問いについても、それぞれで増加傾向であることが分かった。

下は次の3つの質問に対する全校生徒の回答のグラフである。

○新聞が教室に届くことをどう思いますか。 ○どこの紙面をよく読みますか。

○新聞を読むことによって、どんな力が身に付くと思いますか。



② 反省点や課題

実践内容のとおり、様々な改善点、発展させるべき点もあった。昨年度の反省では「共通した取組を学年や教科でできるとよい」とあった。まず新聞掲示については全学年で同じ新聞記事を各学年の生徒が通る箇所に定期的に掲示するようにした。また、前述のとおり、3年生は受験や面接を意識してもらうためにフロアに今までの掲示された新聞記事のファイルを置いて自由に見てもらった。いずれにしても「新聞を読む」ことが、何につながるのか、これからの入試などへの対応力やメディア・リテラシーなども含めた啓発も必要だと感じた。以上のようなことを念頭に来年度も新聞に親しむ活動を続けていきたい。